

事例
9クラウド型業務管理システムの導入による
情報共有の効率化

- 【所在地】 奈良県 【従業員数】 5～9人
 【事業の種類】 放課後等デイサービス
 【課題と対応】 事務作業よりも支援サービスに充てる時間を増やすことが課題であり、毎月のように少しずつ改善策を積み重ねてきた。

従来の情報共有ツールが紙媒体であったため従業員の作業が煩雑になり、情報共有に労力を要していました。そこで、助成金を活用してクラウド型業務管理システムを導入しました。



施設長・管理者

利用情報や
スケジュール管理に
手間がかかっている



代表

情報共有を簡便にするため、クラウド型業務管理システムを導入したい



PDCAサイクルに基づき、前月の活動の振り返り、改善策、翌月の計画について話し合いを行い、実行に移している。

- 紙で行っていた利用者との情報共有について、スマートフォンで入力・閲覧が可能なサイトを設置したことで、利用者から担当者への連絡、担当者から利用者への連絡、申請内容、スケジュール、請求金額等を、瞬時に従業員全体で共有することが容易になった。
- 従業員間の情報共有にかかる時間短縮及び負担軽減によって生産性が向上し、1人の従業員の時間給(最低賃金)を88円引き上げた。

助成金活用のポイント

クラウド型業務管理システムを導入したことで、
効率的な情報共有と利用者へのサービス向上につながった。

(※平成27年度時点の制度に基づく事例)